

|       |       |      |           |   |      |      |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|
| 指定校番号 | 28047 | 学級活動 | 児童会・生徒会活動 | ○ | 学校行事 | 別紙様式 |
|-------|-------|------|-----------|---|------|------|

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

|     |             |    |       |        |      |
|-----|-------------|----|-------|--------|------|
| 学校名 | 廿日市市立大野東小学校 | 校長 | 松江都志美 | 生徒指導主事 | 永山英治 |
|-----|-------------|----|-------|--------|------|

**取組事例名 『たて班掃除』**

**取組のねらい『高学年の自己有用感を高める』**

全学年の児童で構成した異年齢集団による掃除を通して、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、集団への所属感を深めながら好ましい人間関係を育て自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。

とくに、6年生が5年生以下の児童らを、「たて班掃除」の活動を通して指導し評価することで、6年生の自己有用感を高める。

**取組の具体的内容『日常的な異年齢集団活動の設定』**

既存の掃除場所と掃除内容と指導担当者の割り当てについて見直しを行った。その後、組会（同じ組の担任6名ずつで構成）を通して、特に配慮の必要な児童を担当する教職員をそれらの児童との相性などに考慮し優先して決定するなどして全児童を80班にわけた。

運営委員会（児童会）により、たて班掃除のオリエンテーションの計画と運営を行った。

掃除の時間は、開始時に点呼し、10分間掃除を行った後、班毎に集合し、5分間で掃除の状況について自己評価を行わせた。各班の班長（6年生児童）が班員を指導し、毎日の掃除に対する班員の取組状況について評価する。毎週末に、班長はMVPを1名選定する。

美化委員会が、各班の2ヶ月間（掃除場所は2ヶ月間固定する。）の掃除の取組状況の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、児童朝会で表彰した。

**取組の課題・創意工夫『意図的な肯定的評価（適切に計画的に褒める）』**

各班の構成員の自尊感情を高めるために、教職員が肯定的な評価を意図的な計画的に行う。まず、評価する児童を決め、よく観察し、具体的な好ましい言動に対して適切なタイミングで周囲に分かるように褒める。

6年生の自己有用感を高めるために、5年生以下の児童が、6年生に憧れを抱いたり、尊敬したりすることができるように6年生や他の班員に対する肯定的な言葉のかけ方を工夫した。

**取組の成果（効果）『異年齢集団活動（たて班掃除）で6年生の自己有用感が高まる。』**

学校評価アンケート（平成28年12月実施）の結果

質問「みんなのためになることをすすんで行う」についての6学年児童の肯定的な評価が89%

同じ組の担任で構成した組会を組織し、協議する体制をとることで、各班の構成の最適化に努めた。また、今後の縦割り班によるレクリエーション等の多様な活動を展開する素地ができた。

各教職員が担当する学年以外の児童を指導する機会を持つことで、他学年の児童の様子を知ることができ、児童理解が深まった。また、教職員が協力して全児童を指導しようとする機運が高まった。

特に配慮の必要な児童を担当する教職員を児童と教職員との信頼関係の深さなどを考慮し優先して決定することで、問題行動をある程度予防する体制を整えることができた。

運営委員会（児童会）のメンバーに、たて班掃除の意義と目標を理解させる時間を十分に確保することで、児童が自主的な指導・判断に基づく集団活動が展開できるように適切な支援をすることができたと考える。その結果、たて班掃除について、全児童に対するオリエンテーションの計画と運営を運営委員会が主導し、運営委員会のメンバーが運営に対して成就感・充実感・満足感を持つことができたと考えられる。

掃除の時間には、まず10分間掃除を行った後、班毎に集合し、残り5分間で各班の掃除の取組について自己評価した。各班の班長（6年生児童）が班員を指導したり、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価したり、週末に、班長がMVPを1名選定したりすることで、班長の自己有用感を高める機会を設定することができた。さらに、美化委員会が、各班の2ヶ月間の掃除の取組状況に関する評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、児童朝会で表彰することで、美化委員会のメンバーの自己有用感を高めたり、児童らの掃除に対する意欲を高めたり、所属するたて班における豊かな人間関係の構築につながったりしたと考える。

**【運営委員会によるオリエンテーション】**



**【掃除】**



**【評価】**



**【表彰】**



**今後の展開『異年齢集団活動の多様化』**

たて班（異年齢集団）活動を掃除だけでなく、レクリエーション活動等、多様に展開することで、さらに異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあう場面を多く設定したい。そして、より好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養いたい。

6年生が5年生以下の児童をレクリエーション活動等の多様な「たて班」活動を通して評価し、指導することで、6年生の自己有用感を日常的に高める機会を設定する。

**他校へのアドバイス『新たな活動を立ち上げる際はデメリットも丁寧に語る』**

たて班掃除（異年齢集団による掃除活動）を平成27年度に導入した。

たて班掃除を計画し実施するまでに1学期間を費やした。学級掃除からたて班掃除へと既存の枠組が変化することに対して教職員に不安を払拭しながら立案するのに時間を要したためである。

新規の活動を立ち上げるためには、デメリットについても丁寧に説明した上で、最終的にはメリットがデメリットを上回ることをしっかり提示することと、丁寧な説明が大切だと改めて実感した。

